

会議名	第2回 鎌倉市障害者支援協議会 全体会
開催日時	平成28年10月18日（火）10時から12時まで
開催場所	鎌倉市福祉センター2階 第1・2会議室
出席者	<p>[全体会委員]</p> <p>○17名出席（内1名代理出席）</p> <p>「平成28年度鎌倉市障害者支援協議会 第2回全体会 出席者名簿」を参照</p> <p>=欠席委員（3名）=</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斉藤宇開委員（たすく(株)代表取締役：こども支援部会部会長） （代理出席：三井圭子こども支援部会副部会長） ・深見正美委員（民生委員児童委員協議会 第9地区副会長） ・石井健二委員（鎌倉保健福祉事務所専門福祉司） <p>[運営会議委員]</p> <p>○2名出席</p> <p>「平成28年度鎌倉市障害者支援協議会 第2回全体会 出席者名簿」を参照</p> <p>[オブザーバー]</p> <p>○1名出席</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿遊英樹氏（横須賀三浦障害福祉圏域 地域生活ナビゲーションセンター 社会福祉法人湘南の風 支援センター風） <p>[事務局]</p> <p>○5名出席</p> <p>「平成28年度鎌倉市障害者支援協議会 第2回全体会 出席者名簿」を参照</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回全体会 会議次第 ・第2回全体会 出席者名簿 ・(資料1) 鎌倉市障害者支援協議会関係図 ・(資料2) 鎌倉市障害者基本計画・障害福祉サービス計画比較表 ・(資料3) 障害者支援協議会・障害者福祉計画推進委員会との連携 （平成28年度～29年度前半 スケジュール（案）） ・(資料4) 専門部会の活動状況（中間報告）【①権利擁護・相談支援部会】 ・(資料5) 〃 【②地域生活支援部会】 ・(資料6) 〃 【③就労支援部会】 ・(資料7) 〃 【④こども支援部会】 ・(資料8) 基幹相談支援センター総合相談事業の実施状況について ・(資料9) 基幹相談支援センターその他事業の実施状況について ・(資料10) 障害者差別解消支援地域協議会の設置・運営方針（概要） ・(資料11) 障害者差別解消支援地域協議会設置の手引き（概要） ・(資料12) 共生社会の実現に向けた自立支援協議会の役割 : 津久井やまゆり園の事件を受けて（県自立支援協議会会長メッセージ） ・(参考資料) 高齢者見守りネットワーク「さわやかなまち鎌倉」（リーフレット） ・(参考資料) 鎌倉市避難マップ（福祉施設・地域活動支援センター）

会議概要

○議題（協議事項）

（１）鎌倉市障害者福祉計画の改訂について

事務局（市障害者福祉課）から、資料に基づいて鎌倉市障害者福祉計画の構成等及び平成 30 年度改定に向けた障害者支援協議会と障害者福祉計画推進委員会の役割や連携の考え方等について説明が行われ、改めて障害者支援協議会から計画推進委員会に向けて、意見（提言）の提出（平成 29 年 5 月頃を目途）に取り組んでいくことが確認された。

（２）各専門部会活動について中間報告

各部長（子ども支援部会は、副部長が代理）から、資料に基づいて 2 回開催した部会での協議状況及び今後の進め方等について、それぞれ次のおり中間報告及び質疑等が行われた。

【①権利擁護・相談支援部会】

《協議状況等》

- ・部会委員の構成（第 2 回からは臨時委員を追加）及び部長、副部長の選出
- ・28 年度の検討課題「医療と福祉の連携」の設定
（特に精神障害のある方と医療との連携にスポットをあて、具体的な連携を取れるような支援体制作りを目指す）
- ・『精神保健福祉相談フロー図（案）』の検討、作成の状況
- ・鎌倉市基幹相談支援センターとの共催による「障害者差別解消法市民講演会」の開催

《今後の進め方》

- ・鎌倉市精神保健福祉相談フロー図及び全体構成等の検討・作成について、今年度中のまとめを目途に進める。
- ・活用方法等及び 29 年度の取り組みへの継続に関する検討を進める

《質疑等》

- ・フロー図は具体的で分かりやすい。ヘルパー事業所等では精神障害のある方に対し支援を行っているが、そういう事業所が相談できるような窓口なども検討されているか。

→相談支援機関だけでなく、直接の支援者が困っている状況も当然あると思うので、まずはどこに相談したら良いのかということ等について検討していきたい。

- ・近所で少し精神症状を疑われるような方の相談について、民生委員の活動が大きくなると思うが、そうした地域の方の活用ということも考えてほしい。

→家族ではない、地域の人が見つけた気になる方という場合にどうしたら良いのかということは、大事なポイントだと思うので、フロー図に反映できるように検討していきたい。

なお、個人情報の課題については、例えば支援時にはガイドラインがあるが、どこまで地域で共有して安心した生活を支えられるのかということも、まだ検討していく必要があり、こうしたこともできれば整理した方が良いかとは考えている。

- ・親が亡くなり、精神障害者が一人暮らしを自分一人で始めなければならないときは、最初にどうしたらよいか解らない状態になるので、そこを面倒みてくれる又は自分

でやっていける様に道を作ってほしい。

→今の生活の状態が変わった時に、どういう相談やサポートが受けられるのかと
いうことを意識して検討を進めていきたい。

【②地域生活支援部会】

《協議状況等》

- ・部会委員の構成及び部会長、副部会長の選出
- ・28年度の検討課題の設定
- ・「地域交流会活動の継続」

市内各地域の活動（町内会、商店会、地区社協、サロン活動、社会貢献事業等）で
障害がある人が参加し交流できるような工夫や取り組みについて検討を進める。

- ・「移動支援事業のガイドラインの見直し」

横・三保健福祉圏域自立支援協議会（相談支援ネットワーク会議）の検討状況等の
情報（4市1町の移動支援支給基準の状況・移動支援に係る相談支援事業所アンケ
ートの結果等）を共有して今後の検討に繋げていく。

- ・「防災関連の取組みの継続」

鎌倉市避難マップ（福祉施設・地域活動支援センター）残部の活用方法の検討
鎌倉市避難マップの更新について、関係機関等と連携して進められるよう検討

《今後の進め方》

- ・地域交流会活動について、障害特性等を理解してもらう「学習会」のような取組み
の提案など具体的なアプローチを図れるよう検討を進める。
- ・移動支援事業について、障害者福祉計画の改訂に合わせて課題等をまとめていく。
また、居宅介護事業所からの意見の抽出なども検討する。
- ・避難マップの更新内容（二次避難所や認知症関連の記載の追加等）について、関係
機関等と連携して進めていく。

《質疑等》

- ・特になし

【③就労支援部会】

《協議状況等》

- ・部会委員の構成及び部会長、副部会長の選出
- ・28年度の検討課題の設定
- ・「一般就労について」

企業等との連携を図る取組みを検討する。

また、鎌倉市の就労支援の実施状況について改めて確認する。

- ・「B型事業所利用のためのアセスメント等について」

各市町でマニュアル等が示されているが、検証を行っていくには、まだ事例が少な
いため今後の課題とする。

- ・「就労支援事業所の一覧の作成」

将来的に基幹相談支援センターの情報発信に繋げていくような、資料の作成を検討
する。

《今後の進め方》

会議概要
(続き)

<p>会議概要 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般就労・企業との連携について、企業・就労支援事業所間の連携等が深められるような説明会等の企画について検討を進める。 (企業見学会の取り組みは、目的や進め方などについてさらに検討を進め、将来的な課題とする。) ・市内就労支援事業所一覧について、他の先行事例を参照しながら、鎌倉版の作成について検討を進める。 <p>《質疑等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の就労について、この人は「戦力」になるか、ならないかという視点で進められていくことは少し気になった。 →この方は「こういう配慮があれば会社にとって戦力になりうるのですよ」ということを支援者が伝えていくことは非常に重要で、自分自身の一番得意な分野をアピールできるようになればと思ひからの表現である。 「戦力」という表現は、当事者にはきつく感じられるかもしれないが、企業にとってこの部分を担ってもらえるという意味での貴重な「戦力」と理解してもらえると良いのでは。まだ、理解が進みにくいところもあるが、まさに協議会で認識を改めて汲み取っていければと思う。 <p>【④こども支援部会】</p> <p>《協議状況等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会委員の構成及び部会長、副部会長の選出 ・28年度の検討課題の設定 ・「鎌倉市におけるサービスに繋がるプロセスと、ニーズごとの対応窓口等について理解共有できるツールの検討」 各機関の役割やネットワーク（繋がり等）について、現状のフローの見える化を進めることが必要 ・「福祉機関として、発見からアセスメントや支援経過等について、親と共有できるツールについての協議」 市発達支援室が情報共有のツールとして28年度から配布している「サポートファイルかまくら」の活用、定着に向けた支援の検討 <p>《今後の進め方》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市の現状を示すフロー図等について、先行事例である平塚市版を参考に作成について検討を進める。 ・（養護）学校、サービス事業所（放課後等デイサービス事業所）等との連携による活用の促進が図れるよう具体的な取組みの検討を進める。 <p>《質疑等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サポートファイルかまくら」は、非常に詳しくこどもの様子が誰にでも分かる内容になっていると思うが、家庭（親）の記載していく負担を省いていくことを考えていく必要があるのではないか。 また、家庭と集団での様子（保育園、乳児園、小学校、中学校など）は少し違ってくると思うが、集団での様子の記入は親と面談の上で行うのか。家庭での記入では集団における色々なトラブルの問題などは記入しづらい面もあるのではと思うが
----------------------	---

<p>会議概要 (続き)</p>	<p>どのように考えているか。</p> <p>→サポートファイルは、主体的に持つのは親であり、基本的なフェイスシートの部分は親が中心になって記入するものであるが、学校や福祉サービス事業所からの情報なども一緒に綴じていくことを目的としている。</p> <p>その中で、指摘のようなことも含め、可能な限りこのツールを媒介にして情報を共有できるようにすることで信頼関係を作っていくことも意義あることと考える。</p> <p>また、活用を始められた例では、将来、年金を取得する際の詳細な成育歴の記載を行う場面で有効に使えるという認識を持たれた親もいると聞いている。</p> <p>記録を作成することが難しい方に対しては支援者が寄り添って一緒に考えていくことが大切と感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は多くあるが、本人支援のための利用という点では、有用なものとなるのではと思った。 ・スコットランドでは、障害児に対し1冊のファイルが作られ、医療機関や教育機関など関わった機関は必ずどういう関わりをしたか記載することとなっており、プロフィールされた情報は、その都度、関わった機関で活用できるシステムになっている。関わる事業所が、何かあった時に、過去の情報に辿れるだけでもかなり重要な価値があるのではないかと。上手くシステムが出来れば良いと思った。 ・アメリカで育って日本に戻ってきた障害のある小学生の親が持参した資料に「こういう支援や訓練、教育を受けてきた」というデータがあり驚いた。このような形でデータを管理していくのはまだ難しいかと思うが、有効に使えればと思う。 <p>(3) 基幹相談支援センターの活動状況</p> <p>事務局から、資料に基づいて7月に開設された基幹相談支援センターにおける総合相談事業及び人材育成事業等の9月末までの実施状況等について、以下のとおり中間報告及び質疑等が行われた。</p> <p>①総合相談事業の状況</p> <p>《実施状況等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月の相談件数は30件で、市内相談支援事業所の相談支援専門員や地域包括支援センター等のケアマネージャーからの相談が多い状況となっている。 ・相談内容では、高齢者の介護で地域包括支援センター相談が入ったところ、障害者の方が一緒に暮らしていて、その障害者の方のサービスをどうしたら良いかという例が多くみられている。 ・10月5日に障害者差別解消法市民講演会を82名の参加を得て実施した。 ・人材育成として、相談支援専門員研修会「事例検討の意義と目的」を外部講師を招聘し、26名の参加を得て開催した。また、事例検討会を相談支援事業所連絡会と連携して2回開催している。 <p>《質疑等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会のテーマ「中途障害の方の夢を叶える支援」とはどういうことか。 →この事例は、普通に働いていた方で、ある時倒れて動けなくなり、電動車いすを使用するようになった後に退職されたが、これから結婚もしたいとか、もっと違う仕事もしたいという夢があり、その夢を叶えるためには、どういう支援があるのか、
----------------------	---

本人の希望に沿っていくためにどういう支援が考えられるのかということテーマにグループワークにより検討を行ったものである。

(4) 障害者差別解消支援地域協議会について

事務局（障害者福祉課）から、国（内閣府）の資料に基づいて、障害者差別解消支援地域協議会の基本的な仕組みや期待される役割等について説明を行うとともに、市では協議会等からの意見等を踏まえながら、設置に向けて取組んでいきたい旨の考えが示された。

《質疑等》

- ・特に精神障害の方で、トラブルがあって近所から関わりを持たない様にされている状況なども一つの差別だとしたら、どのように働き掛けを行っていくのかということが凄く大事で、この協議会の役割なのかなと思う。
- ・内容が漠然としていて、しかも任意設置みたいなことで、分かり難いところはあるが、そうしたことも含めて相談し、解決していく協議会が設置できるというもので、市も是非設置したいということであり、その方向で進めていければと思う。
- ・自分も差別解消法のことを勉強している。権利擁護のネットワークに参加して勉強している。何が差別かというのがだんだん分かってきた。

会議概要 (続き)

○報告事項

(1) 共生社会の実現に向けた自立支援協議会の役割

：津久井やまゆり園の事例を受けて（県自立支援協議会会長メッセージ）

(2) 高齢者見守りネットワーク「さわやかなまち鎌倉」

（鎌倉市地域包括支援センター連絡会）

上記、2点について、それぞれ資料に基づいて報告が行われ了承された。

○その他

《関連意見等》

- ・協議会での意見等に対する市としての考えや検討の途中経過でも示してほしい。そのようなものがあれば意見に対応してくれているなど判断できる。
- ・専門知識を持っている方が意見を出していないと、不足したものが形にならないと実感した。専門性が必要性なところはこれから協力していきたいと思っている。
- ・今日、横浜で大規模な障害者雇用の面接会があるが、三浦半島の方も横浜に行かなければならない。やはり事業所の数の問題があり、通勤を考えれば、それだけでも障害者にとって負担である。雇用のすそ野を広げていくことに努力していきたい。また、障害者がどこかの企業で働いたという情報が集約される機関がなく、一般就労の状況は把握がしづらいつ感じている。
- ・地域内で進路先をという思いのある本人、保護者が多いが、難しい状況がある。できる限り希望に合うような進路選択ができればと思っている。
- ・支援シートについて、保護者の意識、学校の意識等もあり、ツールとしての活用が十分にできていなかったという思いがあり、学校の方でも整理をしなければと思った。
- ・これからは、認知症の問題は通っていかねばいけない道であり、そういうことを

探って行きたいと思っている。

《次回の予定》

- 3月中旬をめどに日程調整をして早めに各委員に連絡する予定とする。
- 次回の専門部会の活動報告については、それぞれのスケジュールの中で動いていることを踏まえ、基本的にその時点までの報告という形で行いたいと考えている。

以上